



No.3  
2013  
9月

紐  
人  
KUMIBITO  
ひとつに  
ひとすじ  
ひと物語



情報の出どころには何かを伝えたいヒトがいる。『ヒトとリスナーを繋ぐ立場に居続けたい』僕はそう思っている。

### まだまだ未熟者なので、交通整理をさせて頂いているだけなんですよ

ここは鯖江市本町、通称「コアロード・コマチ」。真夏の風が全長300mの商店街を通り抜けた午前9時、今朝も聞かれた「彼の声」が79.1MHzから発信された。

「まだまだ未熟者なので、交通整理をさせて頂いているだけなんですよ」そう話してくれたのは、今月の組人たんなんFMパーソナリティの森こうじさんだ。

今から8年前、「誰のものでもなく、誰のものである」この言葉をスローガンにコミュニティエフエム「NPO法人たんなん夢ステジオ」は開局した。丹南地区をコアターゲットエリアとする「たんなんFM」の中で、森さんは毎朝9時から放送されている「情報ZOOM」のメインパーソナリティを担当している(火・水・金曜日)。

「子供の頃からラジオを聴くことが大好きだったけど、人前で話すことは本当に苦手だったんですよ。だから乗馬のインストラクターなら人と接する機会も少ないんじゃないかと思ひ…(笑)現在の彼からは想像もつかない意外な発言だった。

大学卒業後に北海道の乗馬クラブに就職。北の大地で人と接する楽しみを知りはじめた森さんは2007年の夏に帰郷、ある新聞記事を目にした。

『たんなんFM、パーソナリティ募集!』、彼に転機が訪れた。

### ラジオは想像力の世界

話すことが苦手だった森さんが子供の頃から憧れていた「話す仕事」に就いてから6度目の夏を迎えた。

「僕の言葉は一方通行になっているんじゃないか…実は毎日が不安なんです」と彼が言う。映像を通して情報を伝える媒体がテレビやインターネットなら、ラジオは音と声だけで情報を発信する媒体、つまりラジオは想像力の世界だ。彼は自身が未熟者だからこそ、聞き手が情景描写しやすい言葉選び・聞き取りやすい話し速度など、ラジオ媒体の根本的なことを常に意識しながら語りかけている。

### 彼を支えていくのはリスナーからのアクション

電波という見えない糸で「伝えたいヒト」と「リスナー」を繋ぐ、それが彼の仕事だ。コミュニティエフエムは「地域密着・市民参加」という特徴を生かし、地域の一体化に大きく貢献できるメディアだと言われている。これからの丹南エリアでその中心になるのは『パーソナリティ・森こうじ』で、彼を支えていくのはリスナーからのアクションではないか、私はそう思う。



パーソナリティ  
森 こうじ  
(31歳)  
好きな言葉  
継続=マイクの前で  
話し続けること

撮影:高橋正勝  
取材:前田剛和

## 大 一 印 刷 ス タ ッ フ の 独 り 言 私 は コ レ が 好 き

### 総務 加藤正巳 オールド・モバイル・コレクション

私のコレクションは、一昔も二昔も、いえもつと昔の小さなコンピュータです。今で言う「モバイル」です。

中古品の「モバイル」が手に入りやすかった頃、使いやすい物は無いかと、リサイクルショップやパソコンショップで探して買いました。そのうちに何台もたまってコレクションになってしまいました。

シャープの「ザウルス」、ソニーの「クリエ」、ドコモの「シグマリオン」そのほかポケットコンピュータなど約10種類。

今ではスマートフォンの性能の方が格段によいのですが、そのころはスケジュール管理ができた、デジカメになったり、便利だと思ったもので。当時はこれでも一世を風靡したマシン達でした。



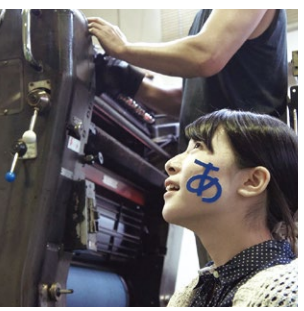
### 制作 牧田有加 『あ』

今年の夏、六本木で開催されている「デザインあ展」を見てきました。「デザインあ展」とはNHKで放送されているデザイン番組を展覧会という形に発展させた企画です。

会場に入ると壁に張り付いた「あ」を発見。入口すぐの撮影スペースには、ばらばらに分解された「あ」。会場に隠れている「あ」がとても可愛くて展示作品を見ている時も何度か後ろの壁にないか確認しながら歩きました。

番組は耳に残る音楽と面白い映像で生活の中にある形の面白さに気づかせてくれます。

出不精なので家にもこもりがちになってしまうのですが、時々ふらっと遠くにいつもと違う物を見に行く事が私の趣味です。



### 製造 中川勇治 やっぱり野球。

私は小・中・高校と毎日が野球の日々でした。

社会人になっても野球やソフトボールを楽しんでいましたが、いつの日か息子が野球を始め、コーチをすることになりました。

現役を離れ、「野球の楽しさを教える楽しさ」と、「応援する楽しさ」というものを子供たちを通して覚えました。あれから10年…長男最後の夏。緊張も喜びも、そして悲しみも最後には感動と感謝に。長男の熱い夏は終わりました…でも悲しむ間もなく三男の10年が始まります。

やっぱり何年たっても野球なんだなあ。

ありがとう長男! そして頑張れよ三男!



## 進化する小学生向け学習雑誌(の付録)

子どもの頃「まだかなまだかな〜」学研の「おばちゃんまだかな〜」でおなじみの学習雑誌がありました。『カブトエビ観察セット』『手作りラジオ』など子ども心を鷲掴みにする『付録』欲しさに購読をねだったものです。

現代の『付録付き通信教育』と言えばベネッセコーポレーションの『こどもチャレンジ』。小学4年生向けのコースでは、タッチペン操作のデジカメ付き電子機器が付録です。学校の教科書を登録すると、設定した時間にキャラクターが勉強を促し出題してきます。クリアするとスタンプがたまって、学習用の動画が見られたり、もはや『付録』ではありません。(加藤さんのコレクション(中面掲載)にも入るクオリティです。)



左が3年前の付録。  
3年だけでもこんなに進んでいます。

しかし毎月送られてくる問題集(親としてはこちらがメイン)をやるのは2ヶ月程度。「毎月やるって言ったやろ! (皿´)」とカミさんが怒鳴りだすのも時間の問題です。

こうなる事は分かっているのですが、1年中「今申し込むとすぐに届く!」「もうすぐ締め切り!」「これで最後!」「本当に最後!」と、繰り返しDMが届きその度に子どもに「絶対やるから」と執拗にねだられ、根負けしてしまいます。親子それぞれの心理を突いたDMの『内容』と『しつこさ』は、印刷会社としても勉強になります。



## 印刷にまつわるエトセトラ

美味しいお菓子里に子どもたちからの  
暖かい気持ちを添えた敬老会用ギフト。

今回は、9月16日(敬老の日)に福井市酒生公民館様よりご注文いただきました「敬老会用ギフト」をご紹介します。

鯖江市にある「お菓子の福寿堂様」にご用意いただきましたお菓子の詰め合わせと、酒生小学校の子どもたちにおじいちゃん、おばあちゃんへの手書きのメッセージを書いていただきました。

「いつもありがとう」「これからも元気でね」感謝の気持ちをのせたメッセージを読みながら、美味しいお菓子を頂く。そんな優しい時間を提供できたら、と思いき提案させていただきました。

今年で2回目になりますが、去年はたいへん好評をいただき、子どもたちに返信のおハガキが届いたそうですよ。



### 編集後記

今回取材させて頂いた森こうじさんは、ラジオパーソナリティ以外にケーブルテレビのレポーターなどでも活躍されています。その一方で3年程前からは自身の趣味とスキルアップを兼ねて「アマチュア落語」を習い始めたそうで、今秋には県の「笑いと健康」普及研修会の一員として県内の福祉施設などで講演されるそうです。

皆さん、一度「たんなんFM」へ遊びに行きませんか?

市民との距離感、これこそがコミュニティエフエムの最大の魅力なんです。

前田

スタッフによるココだけ情報満載!



<http://www.bigone-p.com/blog/>